３．１１を生きぬいた重い障がいのある子どもたち

先に当 HP 記事「地域の中学校卒業、おめでとう、よく頑張ったね！（HP「雑学 BN」の福祉・教育・医療関係（Ｖ）、2012.03.12.：参照）」のお母さんから、「被災体験や支援の記録、防災マニュアルなど、内容の濃い本が出来ました。わたしもちょっと寄稿しています。」とのメールをいただき、「重症児者の防災ハンドブック～３．１１を生きぬいた重い障がいのある子どもたち～」を購読した。

一年前の大震災のあの日、そして社会的支援が動き出すまでの数日の生々しい様子とその体験からの防災の備えへ提言が、在宅児・者の母親、地域の方々も避難してきた通園施設長や支援学校の教師、病院の医師、医療機関や在宅の患者へ医療器機を納める会社の職員、学生チームをローテイションで避難場所となった支援学校へ派遣・送迎した大学の先生、避難所に押しかけるボランティアのコーデイネートを買って出た新潟の支援団体員、避難所を廻り障害児・者の必要な支援の聴き取りと配布に廻った障害者団体員、等々の寄稿文等で編成された書籍であった。

更に、今後の被災時の準備のために、在宅での医療器機や自家発電機の各器機機能のメリット、デメリットや各在宅医療器機のチェックシートの詳細、ＩＴ関係のネットワーク活用法、また、被災時に周りから支援を受け易いように日頃から「ＨＥＬＰカード」の普及を展開中の石川県の活動についても詳細に紹介されていた。

それにしても、まだまだ被災後の片付け等々に気忙しい日々であろうと思うのに、「障がいのある人たちの避難所での生活に何が必要か、幾日も生活しなければならなかった人たちの声をまとめて欲しいと思います。」、「今回の震災では障害者や高齢者で犠牲になられた方も少なくないと聞きました。その方々の思いを伝えることが、たまたま生かされた私たちの務めとだと思います。」、「支援いただいた多くの方々に感謝の思いを伝えたいと思います。『誰かのために～』心を動かし、行動に移したその『支援』に私は支えられ前を向くことができました。」、等々の想いから、僅か１年目を前にして寄稿文をしたためた方々の熱意に敬服する。

確かに内容の濃い本で、ご家族を含めて障害児・者や高齢者に係わり合う方々には、防災や支援のために今だからこそ目にし、側に置くべきと思うので、購読をお勧めします。

阿部幸泰　　（2012 年 4 月 2 日　記）